ヤヒムメからヤヒムードルへ
Von JaChiMuMe zu JaChiMoodle

仁科陽江　Nishina, Yoko
(エアフルト大学　言語センター　Universität Erfurt, Sprachenzentrum)
Ulrike Schmidt　ウルリケ・シュミット
(Software-Entwicklerin; kanji-apps.de　ソフトウエア開発)

要旨 / Zusammenfassung

本稿は仁科陽江とウルリケ・シュミットによる口頭発表[1]の内容をもとにしたもので、二つの部分からなる。第一部（日本語）では仁科陽江が中国語と日本語のマルチメディア教材研究に関するチューリンゲン州助成プロジェクト JaChiMuMe（Sprachlernmaterialien für Japanisch und Chinesisch Multimedia）について紹介する。さらに、プロジェクトから 8 年後のエアフルト大学日本語学習者の実態および学習者による各種教材メディアの評価についても、その調査研究の結果を報告する。

第二部（ドイツ語）ではウルリケ・シュミットがヤヒムードル（仮称）について、そのアイディアと現況を報告する。これは、ヤヒムメの特長を、現行するオープンソースのソフトウェアにおいて再利用・再構成するものである。

Der vorliegende Beitrag basiert auf einem gemeinsamen Vortrag[2] von Yoko Nishina und Ulrike Schmidt und besteht aus zwei Teilen. Im ersten, japanischsprachigen Teil stellt Yoko Nishina das vom Freistaat Thüringen geförderte Projekt zur Erforschung der multimedialen Sprachlehr- und lernmaterialien Chinesisch und Japanisch JaChiMuMe vor. Sie berichtet zudem über die Ergebnisse einer Befragung zur Lernsituation von Japanischlernenden der Universität Erfurt mit Multimedia 8 Jahre nach der Projektperiode sowie über die Untersuchung und die Evaluation der gängigen Lehrmaterialien von Lernenden.

Im zweiten, deutschsprachigen Teil berichtet Ulrike Schmidt über Idee und Status eines Projekts mit dem Arbeitstitel „JaChiMoodle“, das ausgewählte Aspekte von „JaChiMuMe“ mit aktueller Open Source Software reimplementiert.

1　第 18 回ドイツ語圏大学日本語教育研究会シンポジウム(デュッセルドルフ、2012 年 3 月 10 日)

2　Vorgetragen in Düsseldorf, 10.03.2012 auf dem Jahressymposium des Vereins JaH (Japanisch an Hochschulen e.V.)

第一部　ヤヒムメ（JaChiMuMe）プロジェクトとその後
(Teil 1　JaChiMuMe-Projekt und danach)

仁科陽江　Nishina, Yoko

1 JaChiMuMe プロジェクト

JaChiMuMe (Sprachlernmaterialien für Japanisch und Chinesisch Multimedia) プロジェクト[3]は、2001 年から 2003 年にかけて 2 年間、チューリンゲン州の助成を受け、エアフルト大学で実施された日本語と中国語のマルチメディア教材研究プロジェクトであり、当然のことながら当時のマルチメディア言語教育教材をめぐる様相は、現在とはかなり異なっていた。ここではプロジェクトが当時めざしたもの、そのコンセプトと運営について報告し、さらに、その後の状況とエアフルト大学で行った調査結果を簡単に述べる。当時プロジェクト教材は製品化しなかったが、この分野の過去 10 年間における急速な進歩状況に鑑み、第二部ではプロジェクト教材を現行のオープンソースと連携するような未来に向けた提案も行うこととする。

まず、なぜマルチメディアなのか、という目的から述べれば、それは学習・教育上の問題解決のために他ならない。プリントメディアではないマルチメディアだからこそできることを JaChiMuMe はめざした。加えて、通常の教室の授業に並行するブレンディドラーニングとして利用することも考慮した。

問題解決 1: 文字表記

日本語や中国語の複雑な文字体系は、欧米の学習者にとって大きな障壁であるが、マルチメディア教材ではローマ字、ひらがなとカタカナのみ、漢字とふりがな、原文、というように、すべての表記の切り替えがクリックひとつでできる。中国語の場合は簡体字、繁体字、ピンインの表記が選べる。文字をどれだけ学習に取り入れるかは、学習者自身できめることができるわけである。たとえば既習者があるコースに中途編入した場合でも、教材の違いや既習漢字の違いがあっても問題はない。クリックによる文字切り替えがマルチメディ

3　プロジェクトのサイトは、中国語のページを例としてプロジェクトの説明をしている 2002 年当時のもので、日本語もある。http://www2.uni-erfurt.de/sprachwissenschaft/JaChiMuMe/ (Zugriff 10.01.2013)

アならでの長所であり、最近のメディア教材にも盛んに取り入れられるようになった。[4]

問題解決 2: 筆記学習

文字学習の困難さは、読解ばかりでなく、実際に書く技能にも在る。アルファベットを用いる欧米人の認知構造が異なることは、彼らが日本の文字を書き写そうとしたときに逆方向から書き始めたりするなど、ほとんどの場合本来のあり方からかけはなれたものになりがちなことでわかる。上から下、左から右、右上の角、左下の角など、筆記における基本的なことを文字学習初期に体得することは不可欠である。正しい書き順や画数等の指導に、動画やタッチパッドは有効である。今日では多くの教材に動画が取り入れられているようであるが、JaChiMuMe でも技術的に比較的容易に作成できた。

問題解決 3: 音声

音声が内蔵されているので、クリックひとつで読解から聴解に切り替えることができる。当時は代表的な教材[5]さえ、カセットテープを別売りしているのみで、CD に焼きなおして使用している状態であった。今日では発音練習のソフトウェアをダウンロードして、発音を可視化することも可能であるが、当時、自分の発音を画像で再現して比較することのできる CD 教材はごくわずかであり、日本語にいたってはほとんどなかったといってよい。

また、アクセント表示のある教材が少なく、音声化されたメディアもなく、市販の日本語によるアクセント辞典の利用も学習者にとっては容易でなかったという事実をとらえて、アクセント記号の表示と音声との組み合わせも計画された。[6]

問題解決 4: 語彙・文法・言語情報

JaChiMuMe 教材は辞書の電子データ[7]を内臓しているので、マウスでポイントすることで語彙の意味が表示される。文法説明事項は自作のコンテンツをデータベース化し、必要に応じて呼

---

4 ウェブ版『エリンが挑戦！にほんごできます』（国際交流基金）https://www.erin.ne.jp/jp/

5 たとえば『みんなの日本語』の音声が CD 化されたのは 2004 年。

6 現在では、初級学習者のアクセント学習が可能なサイトも公開されている。http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/

7 Wolfgang Hadamitzky u.a. (1997) *Langenscheidt Großwörterbuch Japanisch-Deutsch – Zeichenwörterbuch* データ使用権利のライセンスを購入。

び出せるリレイショナル・データベースであり、その課の新出事項でなくても参照できるし、新出事項を色で区別することもできる。関連する言語情報など必要に応じて呼び出すことができる。図 1 と図 2 の中国語の例を参照されたい。（例示する図 1 から図 4 は、注 1 のウェブサイトに公表しているデモ版より抜粋したものである。デモ版の作成が中国語でなされたので、本稿でも例示しているが、日本語の場合も同様の構造をもつ。さらに他学習言語に拡張する意図もあった。）

問題解決 5: 日本文化・日本事情

エアフルトは旧東独に位置し、学習者は、日本人との交流もほとんどなく、日本についての情報も少ない。図や写真や動画等をフルに利用できるマルチメディアによって、可視化した情報を提供できる（図 3 は食事用の箸についてポップアップした画面）。

問題解決 6: 言語構造

言語構造の理解を促す目的で、句構造モデルを利用して構造を可視化する（図 4）。日本語や中国語は言語類型の点からも欧米語とは構造が大きく異なり、この点も欧米の学習者にとって障壁になっている。一方、理論的に考えることを好むドイツ人学習者も多く、このような句構造モデルの可視化は、分析的な目を養い、応用に生かす契機となり得る。

以上、JaChiMuMe について簡単に述べたが、ここで開発・導入された機能は、10 年経過した現在、インターネット上のサイトやツールを用いて利用することがある程度可能であり、それをオープンソースの Moodle 上で連携させることによって新たな教材形式をとることができる。たとえば、語彙リストを自分で作成したり分類したりすること[8]、マウスのポイントによって単語の意味を他言語で表示させること[9]、原文の表示にふりがなをつけること[10]、さらに、表示されているテクストの中で音声が流れている部分をマークするカラオケ機能を用いたり、ビデオのシーンに出てくる各文を、個々に映像および音声として呼び出して、意味の確認や模倣練習に用いることができる。これらについては、第二部に詳しい。

---

8 たとえば『和独経済』 http://www.wadokukeizai.de/

9 Rikaichan http://www.polarcloud.com/rikaichan/

10 『ひらがなめがね』 http://www.hiragana.jp/en/

図１　語彙リスト

図２　文法解説

図 3　文化情報

図 4　句構造

2　プロジェクトその後

2.1　プロジェクト運営をとおして

申請が通れば比較的多額の助成を受けることが可能なのが研究プロジェクトであるが、そこには問題もある。助成機関は州、国（連邦研究振興会）、学術交流会、各財団など、さまざまであろうが、その場合必要なことは、受け入れ機関、つまりプロジェクトを実施する機関のインフラがととのっていることである。大学であれば、スタッフ、スタッフの研究室、メディア・情報処理センターの設備、開設された語学講座など、プロジェクトを支える場がふつう期待できる。学内で利用できる設備を見つけてそれぞれの担当者の協力をとりつける。この種のプロジェクトは、語学教育関係者やコンセプトをもつ研究者、それを具現する技術者、それを評価する現場の教師や学習者、といったふうに、幅広い条件がそろってはじめて有効な結果を出せるものである。助成額や助成期間によっては、はじめから具体的に計画が立てられないこともある。予算の繰越が不可であったり、短期間で計画を更新しなければならなかったりもする。プロジェクトの人事や器具等の準備も容易でないし、優れた人材に恵まれても他研究所からヘッドハンティングの的になるというようなことに見舞われることもある。民間のスポンサリングと産学連携を求めても、企業の商業主義と大学の研究志向がかみあわないということもあろう。

JaChiMuMe の場合は、プロジェクト停止後、マルチメディアの利用のし方を見直し、おおがかりなプロジェクトでなくても、誰でも日常できることとして、まず、学習者のニーズやリソースの調査などに取り組んだ。幸い、現在のマルチメディアやインターネットの利用環境は、驚くべき進歩を遂げている。ここでは大きく分けて三つの利点を挙げることができる。第一に教材としてのリソースの利用。文字、語彙、読解、作文、その他理解したいテクストを入力して使える翻訳サイトや、文化・社会情報にいたるまで、各学習分野によって様々なサイトやツールが提供されている。具体的には国際交流基金関西センターが作成しているリンク集[11]が大変有用である。第二には、学級運営のための利用で、メールや掲示板や SNS による連絡、

11　『NIHONGO e な』　http://nihongo-e-na.com/　2010

ファイルのアップおよびダウンロードによるデータ通信が大人数に対しても簡単にできる。コピー配布等と比べてコスト削減にもなる。ログブックによって、学習者のネット上の活動状態を教師が把握することも可能である。さらに第三の利点は、それらの連絡網を通じて、情報交換したり、遠隔地ゼミに参加したり、自作のリソースを配布したりなど、学習者への動機付けや主体性を重んじた自律学習をサポートすることができる点である。たとえば翻訳コースで字幕作りなどを行えば、実際に学生の積極的な参加が期待できる。

ただし、問題点としては、リソースの質がまちまちで、信頼性に欠けるものもあること、合法性に問題があって、悪質なものさえあるかもしれない、ということなどがある。たとえばテレビドラマのサイトを閲覧していてウイルスに感染することもあるようだ。重宝していたサイトが突然消える、ということも起こる。個人のサイトなど、いいものに限って、買い取られたりもすることもあるようである。

2.2 メディア使用についての実態調査

実際にどのようなメディアがよく利用されているのか、エアフルト大学における 1，3，5 学期目の日本語コース受講者を対象に記述式質的調査を行った。回答者 15 人 のうち、男子学生 27%、女子学生 73%、1，3，5 学期目に属する割合は、27%、60%、13%であった。

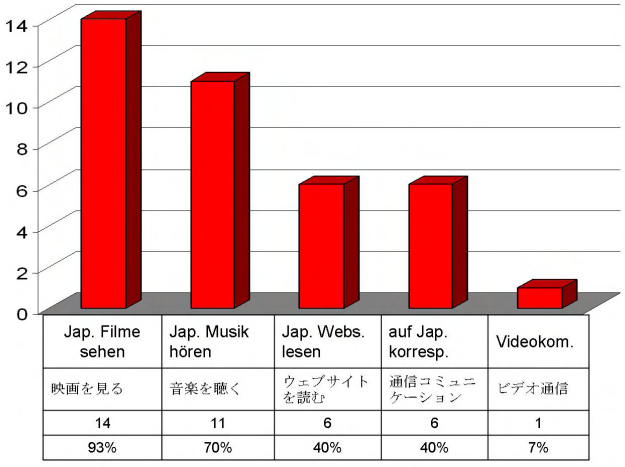
日本語のメディアでよく使うものに関しては、映画・アニメがトップでほとんどの回答者（93%）、次が音楽（73%）、続いて日本語サイトを読んだり（40%）、メールやチャット、ソーシャルネットワークなど、コミュニケーションの目的で使う（40%）という回答が続いた（図 5）。Skype などを用いたビデオ通信が少ない（7%）のは、回答者の日本語レベルが低いので、日本語口頭能力の低さによるものかもしれない。メールや SNS の書き込みなどは自分で書くことに対してはハードルが低いことからよく利用されるものと思われる。

さらに、映画・アニメ・TV ドラマを見ると答えた人のほとんど（93%）が字幕ありのオリジナルの日本語で見ていることは重要である（図 6）。これは、映画・アニメ、J-Pop といった日本のサブカルチャーに人気があり、日本語学習の大きな動機になっているという世界的な傾向に沿う結果でもある。

教室外のメディアで最も多い使用分野は書籍・辞書であった（ともに 74％。図 7）。また、辞書（100％）・文字（93％）・語彙（93％）、というように、語彙学習にメディアが最も利用されている（図 8）。特に、メディアにおける検索機能が好んで活用されているといっていいであろう。

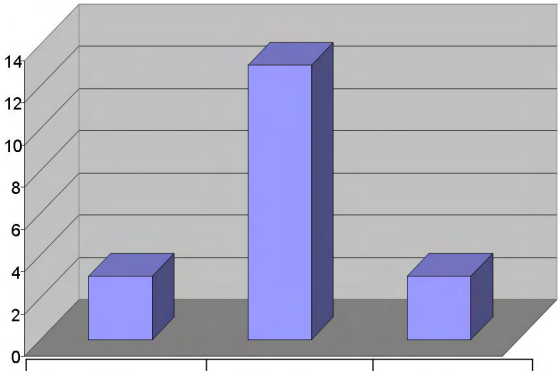
なお、自由に記述した回答の中には、大変多くのリンクがあげられた。グレーゾーンのものもあり、確認する過程でウイルスに感染するというアクシデントもあって、筆者はすべてを確認できなかったことを付け加えておく。

図 5　日本語のどんなメディアに親しんでいるか



Jap. Filme sehen	Jap. Musik hören	Jap. Webs. lesen	auf Jap. korresp.	Videokom.
映画を見る	音楽を聴く	ウェブサイトを読む	通信コミュニケーション	ビデオ通信
14	11	6	6	1
93%	70%	40%	40%	7%

図 6　映画・アニメ・TV ドラマをどのように見ているか



orig. ohne Unt.	orig. mit Unt.	synchron.
字幕なしの日本語	字幕ありの日本語	吹き替え
3	13	3

図 7 授業以外にどんなメディアを日本語学習に利用しているか

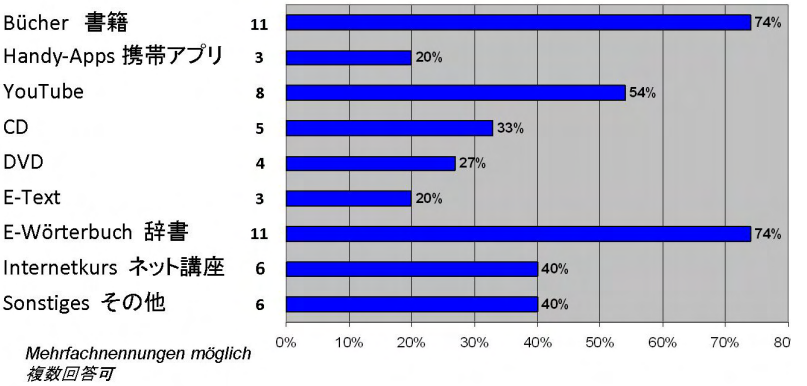
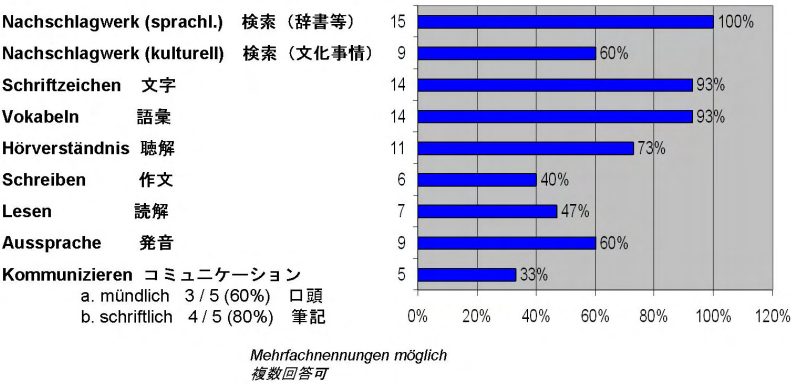


図 8 メディアをどの学習分野に利用しているか



2.3 学習者によるメディアの評価

最後に、2011 年にエアフルト大学言語センターで指導した E-Learning ゼミにおいて、学習者自身が行ったメディア教材の試行と評価について、簡単に報告しておく。ほとんど日本語の知識のない初心者が対象で、メディアの選択も学習者自身によった。ほとんどドイツ語での情報網による。

メディア教材は、大きく携帯電話のためのアプリケーション、インターネットの語学コース、CD で売られている教材ソフトに分類されるが、これに加えて、ふつうの図書形態のものも調査した。JaChiMuMe プロジェクトの当時と大きく変わったのは、携帯アプリの登場で、スマートフォンでなくてもごく普通の携帯で使えるものなどもある。さらにインターネッ

トの語学コースが充実し、規模も大きくなっている。大きな変化は、ソーシャル性を帯びていて、学習者同士、または母語話者との交流がネット上でできるようになったことである。それが前面に出ているものもある。

携帯アプリはどこでも取り出せる手軽さが魅力で、たとえば JA Sensei[12]のように主に文字・単語学習など記憶学習という用途に適している。小さいディスプレイでもわかりやすいデザインで、書き順や方向をヴィジュアルに学んだり練習したりでき（図 9）、自分の達成度を評価させることができる（図 10）。基本的に無料で、有料版も多額ではない。昨今のスマートフォンの普及により、スマホアプリは激増している。既述の「NIHONGO e な」のスマホ版の公開が期待されるところである[13]。

インターネットのコースもいろいろとあるが、無料の Livemocha[14]では母語話者のヘルプや他のユーザーとのコンタクト、文化情報などが動機付けになるようである。作文添削サイトの Lang-8[15]も参加者同士の協力で機能している。

ただし、教材作成のコンセプトや教授法の点では、このようなネット上の無料サイトは専門性が低く、比較的高価な（学生版でも約 400 ユーロ）Rosetta Stone のような視聴覚教材には及ばないようである。後者は、動画や発音認識表示などを含み、包括的な言語学習のなかで学習効果も期待される。モバイル版も充実してきた。

伝統的な本の長所も捨てがたいことは、学習者自身が認識している。Mini Sprachkurs Japanisch (Pons) は、場面シラバスによるコンパクトな旅行者向けの日本語ガイドで、それに適した文法・語彙・表現が付録にまとめられ、索引や CD もある。電源やネット環境が不要で持ち運びに良いところは旅行者にとってもありがたい（価格は 6 ユーロ 95 セント）。

最後に、学習者によるメディアの評価の中には、筆者自身個人的には首をかしげるようなものもあったことを付け加えておこう。YouTube などにアップした動画教材の中には、斜め読みのようにスキップもできず、遅いテンポがむしろ退屈

12 http://www.japan-activator.com/
13 現在準備中。国際交流基金 p.c.(personal communication)
14 http://www.livemocha.com
15 http://lang-8.com

でもあり、安易な学習内容が音楽にあわせて繰り返されるような内容のものがある。しかし、ポップファンや日本語に対して壁を感じる学習者には、そのゆっくりしたテンポや繰り返しが気に入るらしい。ある女子学生は「毎晩、これを見てから寝るんです。」と嬉しそうに言った。教師としてまず考えるのは、学習効果をいかにして上げることができるか、学習者にとって何が難しいのか、ということだったが、このゼミを通じて、学習者にとって何が楽しいのか、学習者の気持ちを知るという意味で、筆者自身も考える契機となった。

3　おわりに

JaChiMuMe プロジェクトは当時斬新なプロジェクトであり、大きな可能性を秘めていた。10 年経過した今日、その紆余曲折を振り返り、マルチメディアやインターネットの現状や学習者の実態をみてみると、JaChiMuMe が、今日の視点からみても、そのアクチュアリティを失っていないことが確認できる。今後、教材開発や教授法導入などの、さらなる充実に JaChiMuMe で得られた知見を活用していきたい。

図 9　JA Sensei　文字学習

図 10　JA Sensei　達成度評価

Teil 2 JaChiMoodle
(第二部 ヤヒムードル)

Ulrike Schmidt ウルリケ・シュミット

"JaChiMoodle" ist der Arbeitstitel eines Projektes, das versucht, Teile der Funktionalität von "JaChiMuMe" mit aktuellen technischen Mitteln nachzubauen. "JaChiMuMe" steht für "Sprachlernmaterialien für Japanisch und Chinesisch multimedial" und ist der Name eines Projektes der Universität Erfurt von 2001 bis 2003, das sich die Entwicklung einer Plattform für ebensolche Lehr-/Lernmaterialen zum Ziel gesetzt hatte. Eine genauere Beschreibung dieses Projektes befindet sich im ersten japanischsprachigen Teil dieses Beitrags bzw. auf http://www2.uni-erfurt.de/sprachwissenschaft/JaChiMuMe/.

Die Grundidee von "JaChiMuMe" bestand darin, Videos in Webseiten einzubinden und mit Untertiteln in Originalschreibweise, lateinischer bzw. Kana-Umschrift, deutscher Glosse und Übersetzung zu versehen, die nach Wunsch ein- und ausgeblendet werden konnten. Die Untertitel waren verlinkt mit Information zu Vokabeln und Schriftzeichen. Neben dem Video stand der gesprochene Text. Durch Mausklick auf einen Satz konnte man wahlweise die entspechende Stelle im Video anspringen oder sich die grammatikalische Analyse in Baumstruktur anzeigen lassen. Zu jeder Lektion gab es Vokabellisten, Grammatikerklärungen und Übungen. Die Texte, Sätze und Wörter wurden in einer komplexen multilingualen Datenbank gepflegt.

Das Ziel von "JaChiMoodle" ist es, Teile dieser Funktionalität von "JaChiMoodle" nachzubauen. Videos sollen untertitelt und verlinkt werden, aber anders als "JaChiMuMe" mit offen zugänglichen Wörterbüchern und Lexika wie die verschiedenen Ableger von Ulrich Apels Japanisch-Deutschem Wörterbuch "WaDokuJT" (http://wadoku.eu/, http://wadoku.de/), dem Japanisch-Deutschen Wirtschaftswörterbuch "Wadokukeizai" (http://www.wadokukeizai.de/) von J. Henning Buchholz und anderen, der Webseite zum "Kanji ABC" von Andreas Förster und Naoko Tamura (http://kanjiabc.net/), für die ich verantwortlich bin, und was sich sonst noch als geeignet herausstellt. "JaChiMoodle" ist Work in progress. Hier soll über den aktuellen Stand der Dinge berichtet werden.

Das Projekt besteht bisher aus einer Instanz der Open Source Lernplattform "Moodle", die auf http://www.jachimoodle.de/ gehostet ist. Der Kurs "Video Annotation à la JaChiMuMe", der auch für Gäste zugänglich ist, ist dazu gedacht, für das Projekt nützliche Informationen zu sammeln und die Aktivitäten zu koordinieren.

Dort steht auch die aktuelle Version des ersten Video Prototyps bereit, eine Bearbeitung des Trailers von "Radioactivists – Protest in Japan since Fukushima" von Julia Leser und Clarissa Seidel (http://radioactivists.org/). Die Filmemacherinnen haben für dieses Projekt netterweise die Untertitel zur Verfügung gestellt.[16]

Videosteuerung und anklickbare Untertitel werden mit Mozilla Popcorn (http://mozillapopcorn.org/, http://popcornjs.org/) umgesetzt, einem HTML5/JavaScript Framework für interaktive Web-Medien, das sowohl mit lokalen Video-Dateien, als auch mit auf Youtube oder Vimeo gehosteten Videos umgehen kann. Für den Prototyp wurden Ideen von Kate Hudsons Sprachlern-Demo "Popcorn Macbeth" (http://katehudsondesign.com/demos/popcornmacbeth/) übernommen, für Japanisch angepasst und ausgebaut.

Version 3 des Prototyps verfügt über folgende Eigenschaften:

- Es ist möglich, japanische und deutsche Untertitel nach Belieben ein- und auszublenden.
- Nach einem bestimmten Schema annotierte Wörter werden in den Untertiteln gelb markiert. Fährt man mit der Maus darüber, erscheint ein Tooltip mit Lesung und Übersetzung. (siehe Abbildung 2)
- Aus den annotierten Wörtern wird eine Vokabelliste erstellt, die mit dem Video verlinkt ist: klickt man auf eine Vokabel, springt das Video zu dem Satz, in dem das Wort vorkommt. (siehe Abbildung 2)
- Über einen zweiten Reiter bekommt man die Text-Ansicht. Auch hier gelangt man über einen Klick auf einen Satz zur entsprechenden Stelle im Video. (siehe Abbildung 1)
- Ein dritter Reiter erlaubt das Nachschlagen von Wörtern und Schriftzeichen in Online-Lexika. Dazu muss lediglich die Zeichenkette im japanischen Untertitel markiert werden. (siehe Abbildung 3)

Diese Version der Prototyps kann auch mit anderen Videos und Untertiteln verwendet werden, dazu muss lediglich eine Konfigurationsdatei angepasst werden. Die Untertitel müssen im SubRip-Format vorliegen.

Es gibt zahlreiche Editoren zum Erstellen von Untertiteln, die im SubRip-Format exportieren können. Ein Online-Angebot ist http://www.amara.org/. Auf dieser Seite kann man mit anderen ge-

16 Die Untertitel beschränken sich auf die Passagen, die auch in der Vollversion vorkommen.

meinsam an Untertiteln arbeiten,[17] bereits bearbeitete Videos durchstöbern, sie in eigene Webseiten einbetten und auch die Untertitel herunter laden.

Amara bietet eine Programmierschnittstelle an, mit der man direkt auf Untertitel zugreifen kann. Das könnte bei der Weiterentwicklung von JaChiMoodle zum Import von Videos und Untertiteln genutzt werden.

Eine weitere Verbesserungsmöglichkeit betrifft die Annotation von Wörtern. Zur Zeit müssen Vokabeln noch mühsam mit einem Texteditor in einem speziellen Markup annotiert werden. Das kann computerunterstützt und komfortabler werden.

Vielleicht sollte auch der Arbeitstitel "JaChiMoodle" überdacht werden. Der aktuelle Prototyp funktioniert völlig unabhängig von Moodle. Er kann die Grundlage für ein zukünftiges Moodle-Plugin bilden, dass die Einbettung der Aktivitäten in die Moodle-Infrastuktur und den Unterricht erleichtert. Er kann aber auch als eigenständige Webanwendung oder JavaScript-Bibliothek weiterentwickelt und für andere Sprachen verallgemeinert werden. Dieses Projekt könnte "EduSubs" heißen, "educational subtitles".

Sucht man auf amara.org nach japanischen Videos, fällt die hohe Anteil von Anime und J-Pop auf.[18] Auch in der Befragung von Nishina (im ersten Teil) wird deutlich, wie beliebt japanische Musik und japanische Filme vorzugsweise im Original mit Untertiteln unter den Studierenden der Universität Erfurt sind, und dass vor allem elektronische Wörterbücher zum Nachschlagen von Schriftzeichen und Vokabeln verwendet werden. EduSubs bieten all dieses in Kombination. Eine Integration von EduSubs mit lizensierten Anime und Karaoke könnte Japanisch als Fremdsprache einen gewaltigen Schub geben.

---

17 Wer die noch bestehenden Transkiptionslücken im Radioactivists Trailer schließen möchte, kann hier tätig werden: http://www.amara.org/de/videos/0vOqbIGp1c1O/info/radioactivists-official-trailer/

18 http://www.amara.org/de/search/#/?q=&video_lang=ja

Abbildung 1: Text mit Videosteuerung

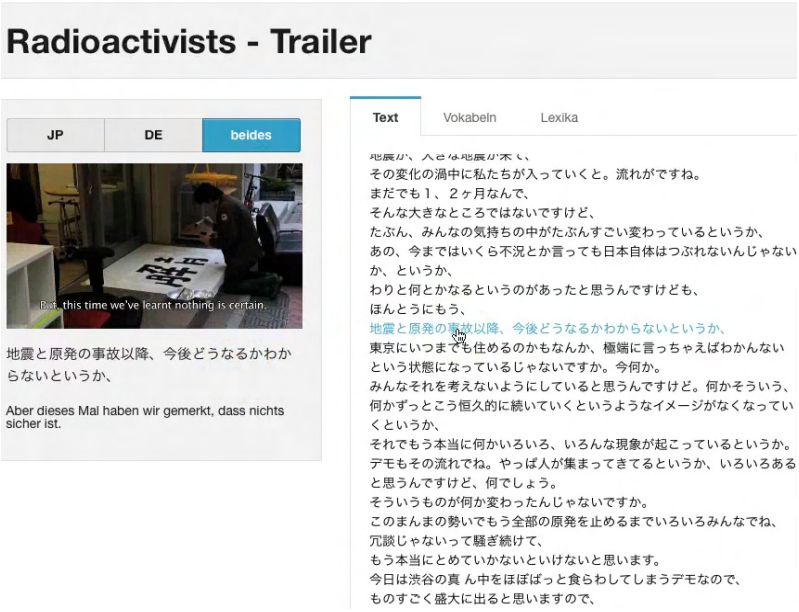


Abbildung 2: Vokabelliste und Mouseover

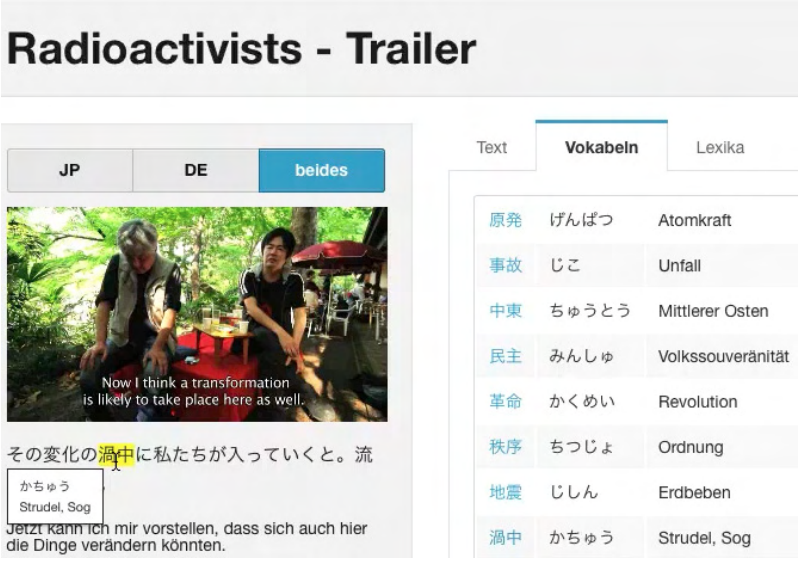
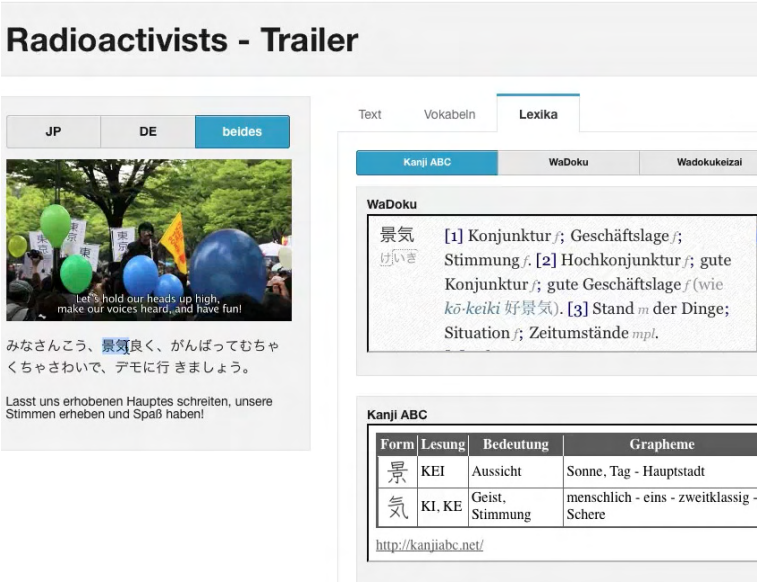


Abbildung 3: Textmarkierung zum Nachschlagen in Online Lexika



参考文献

Hadamitzky, W., Spahn, M., Putz, O., Arnold-Kanamori, H., Frischkorn, T., Günther, N. 1997. *Langenscheidt Großwörterbuch Japanisch-Deutsch – Zeichenwörterbuch.* Berlin, u.a.: Langenscheidt.

3A Corporation. 2004. 『みんなの日本語』初級 I CD4 枚セット スリーエーネットワーク.

参照 URL*

国際交流基金 ウェブ版『エリンが挑戦！にほんごできます』 https://www.erin.ne.jp/jp/

東京大学工学系研究科峯松研究室/情報理工系研究科廣瀬研究室『OJAD』http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/

http://www.polarcloud.com/rikaichan/

『ひらがなめがね』 http://www.hiragana.jp/en/

The Japan Foundation Japanese-Lanugage Institut, Kansai (2010) 『NIHONGO e な』 http://nihongo-e-na.com/

http://www.polarcloud.com/rikaichan/

http://www.livemocha.com

http://lang-8.com

http://www.japan-activator.com/
http://www.amara.org
http://www.jachimoodle.de
http://kanjiabc.net
http://katehudsondesign.com/demos/popcornmacbeth/
http://mozillapopcorn.org
http://popcornjs.org
http://radioactivists.org
http://www2.uni-erfurt.de/sprachwissenschaft/JaChiMuMe/
http://www.wadokukeizai.de
http://wadoku.de
http://wadoku.eu

[* URLs zuletzt abgerufen am 30.01.2013 / 2013 年 1 月 30 日現在]